

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2000-5489

(P2000-5489A)

(43) 公開日 平成12年1月11日 (2000.1.11)

(51) IntCl⁷

D 0 6 F 57/00

識別記号

3 5 0

F I

D 0 6 F 57/00

キーワード (参考)

3 5 0

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号

特願平10-178797

(22) 出願日

平成10年6月25日 (1998.6.25)

(71) 出願人 000115968

レック株式会社

東京都文京区小石川5丁目2番7号

(72) 発明者 川原 哲生

東京都文京区小石川五丁目2番7号 レッ

ク株式会社内

(74) 代理人 100067046

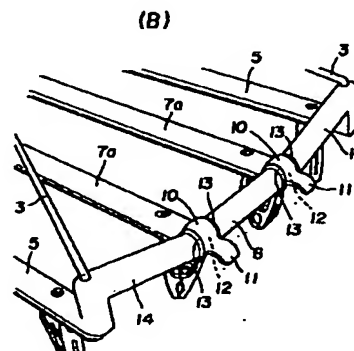
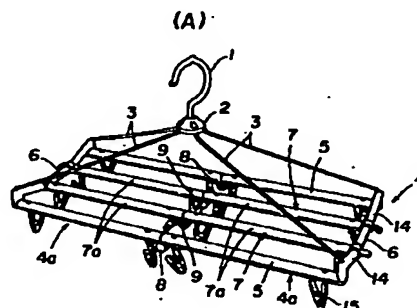
弁理士 尾股 行雄

(54) 【発明の名称】 大物まとめ干しハンガー

(57) 【要約】

【課題】 長くて幅広なシーツを干すのに広い干し場を必要とせず、使わないときには、広い保管場所を必要としない大物まとめ干しハンガーを提供する。

【解決手段】 平面矩形状の枠型フレーム4の長い枠部分5に平行して、該枠型フレーム4の短い枠部分6、6間に複数本の連結バー7、7を配設する。この枠型フレーム4は、同形のコの字状枠体4a、4aが突き合わされ、その突き合わせ位置下方箇所に形成された回動自在な枢着部8、8で一体的に連結されており、また、連結バー7、7は、同形のバー7a、7aが突き合わされ、その突き合わせ位置下方箇所に形成された回動自在な枢着部9、9で一体的に連結されていて、これらの枢着部8、8、9、9は、枠型フレーム4の長手方向の長さを2等分し且つ長手方向に直交した同一線上に配列されて、各枢着部8、8、9、9で折り畳める。



Best Available Copy

【特許請求の範囲】

【請求項1】吊下フックのホルダーに止着された吊紐によって略水平となるように保持される平面矩形状の枠型フレームと、

その枠型フレームの長い枠部分に平行して、該枠型フレームの短い枠部分間に配設される複数本の連結バーとを有し、

上記枠型フレームは、同形のコの字状枠体が突き合わされ、その突き合わせ位置下方箇所に形成された回動自在な枢着部で一体的に連結されており、

上記連結バーは、同形のバーが突き合わされ、その突き合わせ位置下方箇所に形成された回動自在な枢着部で一体的に連結されており、

これらの枢着部は、枠型フレームの長手方向の長さを2等分し且つ長手方向に直交した同一線上に配列されることを特徴とする大物まとめ干しハンガー。

【請求項2】各バーの一端側に形成された円弧状の嵌着部と、該嵌着部に連続して形成された指掛り部と、

枠型フレームの短い枠部分に形成された凹状部と、該凹状部の両側に形成された鉤状隆起とを有し、

上記バーの嵌着部が枠部分の凹状部に着脱自在に係合係止することを特徴とする請求項1の大物まとめ干しハンガー。

【請求項3】上記枠型フレームの短い枠部分の両側部分は側面形状が直角三角形としたことを特徴とする請求項1の大物まとめ干しハンガー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、主にバスタオルやシーツなどの大きな洗濯物を干すのに好適な大物まとめ干しハンガーに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、長くて幅広なバスタオルやシーツなどは物干竿に掛けて干しているが、そのとき物干竿は殆どシーツに占有されてしまって、他のものを干す余地がない状態にしてしまった。物干竿以外にも多くの合成樹脂製物干ハンガーが市販されているけれども、バスタオルやシーツなどの大物まとめ干しハンガーとして好適といえるものはないといってよいのが実情であった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明が解決しようとする課題は、長くて幅広なシーツを物干竿に引っ掛けたハンガーで干すときに、できる限り狭い占有範囲をもって済むようにするとともに、不使用時には折り畳んでコンパクトな形態となすことができ、その保管場所に無駄な広さを必要としない大物まとめ干しハンガーを提供することである。

【0004】また、上記の大物まとめ干しハンガーに、通し干し（シャツやズボンといった洗濯物を竿に通して干す干し方）が行える機能を付加することである。

【0005】更に、大物まとめ干しハンガーを折り畳んで床面上に立った状態で置いたときに、安定性がよく転倒のおそれをなくすことである。

【0006】

【課題を解決するための手段】かかる課題を解決するための手段として、本発明に係る請求項1の発明は、吊下フックのホルダーに止着された吊紐によって略水平となるように保持される平面矩形状の枠型フレームと、その枠型フレームの長い枠部分に平行して、枠型フレームの短い枠部分間に配設される複数本の連結バーとを有し、

上記枠型フレームは、同形のコの字状枠体が突き合わされ、その突き合わせ位置下方箇所に形成された回動自在な枢着部で一体的に連結されており、上記連結バーは、

同形の2本のバーが突き合わされ、その突き合わせ位置下方箇所に形成された回動自在な枢着部で一体的に連結されており、これら4つの枢着部は、枠型フレームの長手方向の長さを2等分し且つ長手方向に直交した同一線上に配列されるようにしたものである。

【0007】また、請求項2の発明は、各バーの一端側に形成された円弧状の嵌着部と、該嵌着部に連続して形成された指掛り部と、枠型フレームの短い枠部分に形成された凹状部と、該凹状部の両側に形成された鉤状隆起とを有し、上記バーの嵌着部が枠部分の凹状部に着脱自在に係合係止するものである。

【0008】更に、請求項3の発明は、上記枠型フレームの短い枠部分の両側部分は側面形状が直角三角形としたものである。

【0009】

【発明の実施の形態】本発明の一実施例を図1(A)に示した。この物干しハンガーは、物干竿（図示せず）に引っ掛けられる吊下フック1のホルダー2に4本の合成樹脂製吊紐3を止着し、それらの吊紐3によって略水平となるように保持される平面矩形状の枠型フレーム4があって、その枠型フレーム4の長い枠部分5、5に平行する2本の連結バー7、7が、枠型フレーム4の短い枠部分6、6間に配設されている。この枠型フレーム4の構成は、同形のコの字状枠体4a、4aが突き合わされ、その突き合わせ位置下方箇所に形成された回動自在な枢着部8、8で一体的に連結されたものである。連結バー7の構成も同様であって、同形のバー7a、7aが突き合わされ、その突き合わせ位置下方箇所に形成された回動自在な枢着部9、9で一体的に連結されたものである。これら4つの枢着部8、8、9、9は、組立状態を示す図1(A)から明らかなように、枠型フレーム4の長手方向の長さを2等分し且つ長手方向に直交した同一線上に同芯状に配列されるのである。

【0010】図1(A)の物干しハンガーを使ってシーツ類を干すときには、並列する枠型フレーム4の長い枠部分5、一本の連結バー7、もう一本の連結バー7、枠型フレーム4の残りの長い枠部分5といった順番で順次シ

ーツを波形に引っ掛ける。要すれば風が吹いても飛ばされないように、枠型フレーム4および2本の連結バー7、7にぶら下げた複数のピンチ15で適宜止め付けておく。

【0011】上記したとおり、4つの枢着部8、8、9、9は枠型フレーム4の長手方向の長さを2等分し且つ長手方向に直交した同一線上に同芯状に配列されるから、4つの枢着部8、8、9、9で折り畳んでコンパクトな状態にできる。図4は、その状態を示している。同図から、吊下フック1のホルダー2に止着された4本の合成樹脂製吊紐3や複数のピンチ15はわざわざ取り外さなくてもよいことがわかる。

【0012】図1(A)で、枠型フレーム4の短い枠部分6側から見ると、その枠部分6の両側は斜め上方に傾斜し、一番高くなった箇所からは垂直に降下して、長い枠部分5に繋がる側面形状となっている。換言すれば、枠部分6の両側部分14、14は側面形状が直角三角形となっている。このため、図4のように折り畳んで床面上に立たすときには、前記直角三角形の箇所が底面となるため当接面積が増え、転倒のおそれが少ない安定性のよいものとなる。

【0013】つぎに、枠型フレーム4と、その枠型フレーム4の内側に取付けた連結バー7、7について説明すると、両者は脱着不可能なものでもよいが、好ましくは着脱自在とすることである。このため、図1(B)の拡大図で示したように、各バー7aの一端側には円弧状となった嵌着部10と、該嵌着部10に連続する指掛り部11を形成し、枠型フレーム4の短い枠部分6には、図2(A)および図2(B)で示したように、凹状部12と、その凹状部12の両側に夫々鉤状隆起13を形成して、バー7aの嵌着部10を枠部分6の凹状部12に係合係止させることで着脱自在としている。このように枠型フレーム4の内側に取付けた連結バー5、5が着脱自在であると、1本の連結バー7の左端は枠型フレーム4に係止させたままとし、右端は枠型フレーム4から外し、枢着部9で折り畳んだ図3(A)の状態にさせることができる。それにより、外した端部側からシャツや子供のズボンなどの洗濯物を通して通し干したり、あるいは乾いたものを抜き取るのが容易となる。図3(B)は二つ折り箇所の拡大図である。

【0014】

【発明の効果】以上説明したように、請求項1の発明によれば、枠型フレームの長手方向に併設された幾つかの部材に長くて幅広なシート類を順番に引っ掛けて保持し、その物干ハンガーの長手方向の向きを物干竿と直交

する向きに吊すことで、限られた狭い干し場を有効活用することができる。また、4つの枢着部から折り畳んでコンパクトな状態に変形させることができるので、不使用時の保管場所に無駄な広さを必要となくできるし、吊下フックのホルダーに止着された4本の吊紐やピンチ類を付けっ放しのままで折り畳めるので手間が省ける。

【0015】また、請求項2の発明によれば、連結バーは枠型フレームに対して着脱自在に取り付くから、連結バーの一端だけを外し、そこからシャツや子供のズボンなどの洗濯物を通して干したり、乾いたものを抜き取って取り込むのが簡単にできる。

【0016】更に、請求項3の発明によれば、枠型フレームの短い枠部分は側面形状が直角三角形としたから、折り畳んで床面上に立たせた状態で安定性が良好であり、転倒防止が達成できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】(A)は本発明の一実施形態を示す斜視図である。(B)は図1のフレームとアームの嵌着部の拡大図である。

【図2】(A)は図1のアームを取り除いたフレームを吊った状態を示す斜視図である。(B)は図2(A)のフレームに形成されている嵌着部の拡大図である。

【図3】(A)は図1の物干しハンガーの一実施形態に用いられる支持部材を示す斜視図である。(B)は図3(A)の二つ折り箇所の拡大図である。

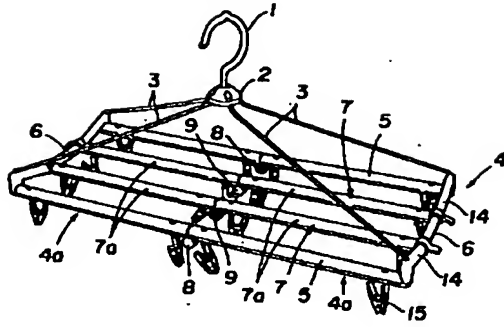
【図4】図1の物干しハンガーを二つ折りにした形態の斜視図である。

【符号の説明】

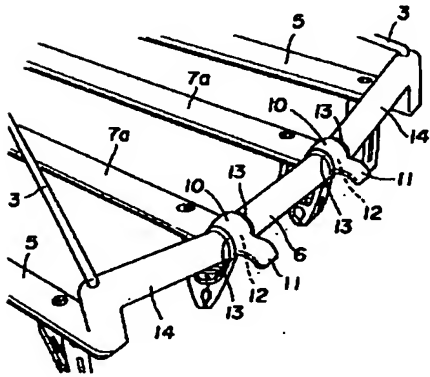
- | | |
|----|------------|
| 1 | 吊下フック |
| 2 | ホルダー |
| 3 | 吊紐 |
| 4 | 枠型フレーム |
| 4a | コの字状枠体 |
| 5 | 長い枠部分 |
| 6 | 短い枠部分 |
| 7 | 連結バー |
| 7a | バー |
| 8 | 枢着部 |
| 9 | 枢着部 |
| 10 | 嵌着部 |
| 11 | 指掛り部 |
| 12 | 凹状部 |
| 13 | 鉤状隆起 |
| 14 | 短い枠部分の両端部分 |
| 15 | ピンチ |

【図1】

(A)

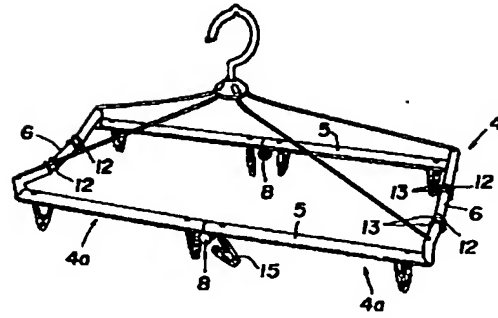


(B)

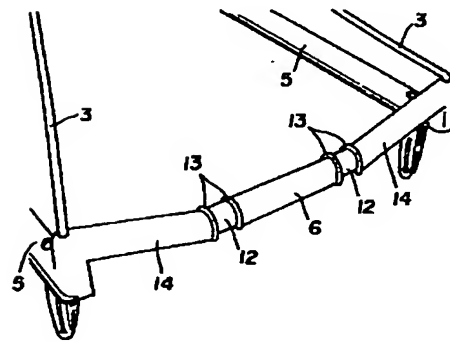


【図2】

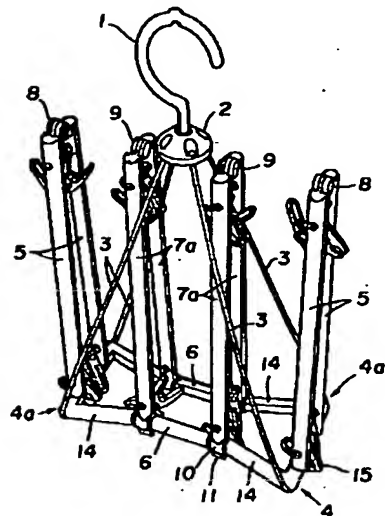
(A)



(B)

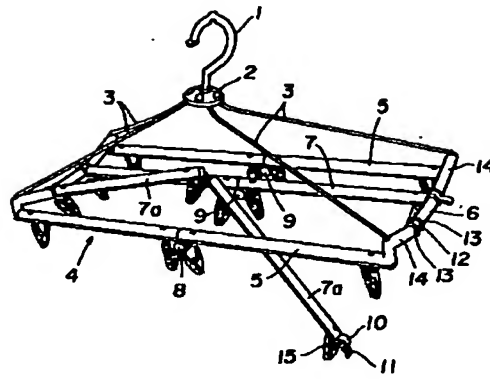


【図4】



【図3】

(A)



(B)

